

「エッジ相談アセスメントご利用者のアンケートより」

～ 読み書きのアセスメントを活用するために～

目次

1. エッジの読み書きアセスメント
2. アンケート結果
3. 河野俊寛先生のアンケート結果分析
4. ご利用者の声



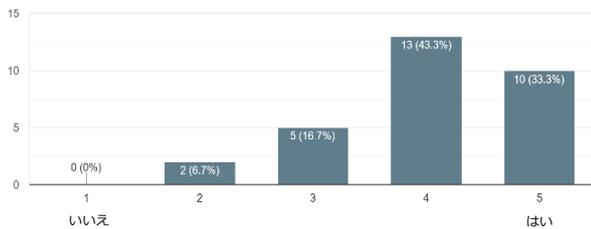
1. エッジの読み書きアセスメント

エッジでは読み書きに困難を感じている方に「読み書きのアセスメント」を行っています。小学校 2 年生から大人の方まで検査ができ、検査から分かった数値をもとに、主に学習についての様々なご提案を「意見書」としてお渡ししています。「意見書」は児童生徒・保護者の方たちが、学校や家庭で自分の特性に合った学習方法を見つけるために、また、その学習方法を合理的配慮として調整する際の根拠として、学校関係者との対話へのきっかけとしてご利用されています。この度、エッジの相談アセスメントをご利用された方へ、「意見書を受け取った方へのアンケート」を行いました。アセスメント後に受け取った「意見書」を、どのように活用されたかをおたずねしています。読み書きのアセスメントを受けたことで、良い方向に進んだ方、進みそうな方、残念ながら変化が見られない方と、様々な声をいただきました。多くの方が、「意見書」を受け取った後に何らかのアクションをおこし、読み書きに困難があってもより良い学習の環境を整えようとしておられます。また、アンケートの結果から分かることを河野俊寛先生に分析して頂きました。読み書きに困難を感じている方、読み書き困難のアセスメントに関心がある方、読み書き困難の子供達と接する機会のある方など多くの方にご一読いただけると幸いです。

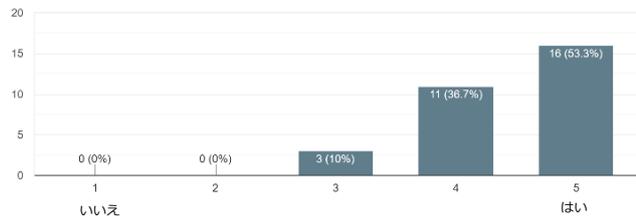
2. アンケート結果

【質問】意見書について

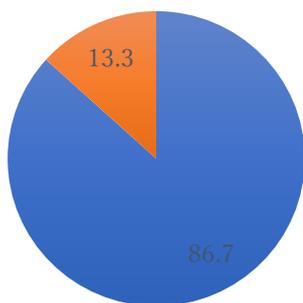
意見書の内容は分かりやすかったですか。
30 件の回答



お子様の読み書きの困難さについての理解は深まりましたか。
30 件の回答

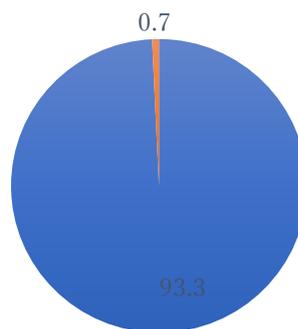


【質問】意見書は学校へ提出
しましたか



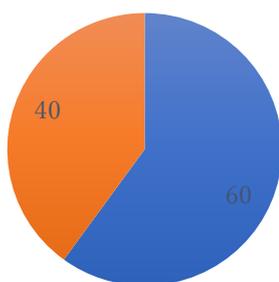
■ はい ■ いいえ

【質問】保護者の方から学校へ働きかけ
を行いましたか



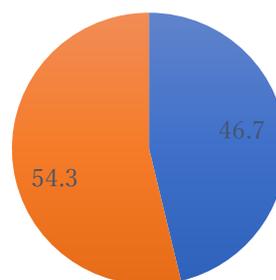
■ はい ■ いいえ

【質問】保護者の方と教員の
コミュニケーションに変化は
ありましたか



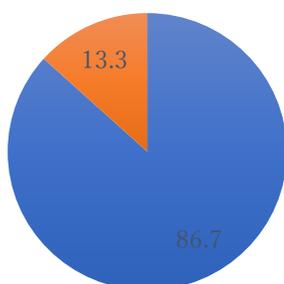
■ はい ■ いいえ

【質問】意見書を参考に学習し
やすい方法を見つけましたか



■ はい ■ いいえ

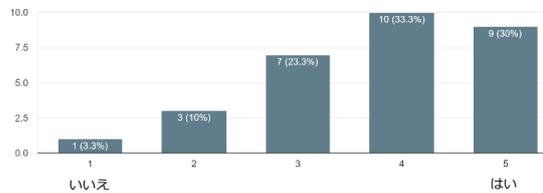
【質問】ご家庭で具体的な支援は
実施しましたか



■ はい ■ いいえ



具体的な支援方法は参考になりましたか。
30件の回答



【質問:意見書を受け取った後、学校へ働きかけた結果、実施された支援や配慮があればお答えください。(30件中)】

- ◆授業での ICT 機器の利用 (10 件)
- ◆宿題の量の調整 (6 件)
- ◆板書の内容をプリントやデータで渡す (3件)
- ◆テストでの配慮、時間延長 (9 件)
- ◆テストでの配慮、口頭試問 (3 件)
- ◆配慮や支援は行われていない (5 件)
- ◆その他 (17 件) 以下内容

長文の提出物のタイピング
作文をデータで提出
テストの別室受験
とめはねはらいを細かく注意しない
プリントやテストでのフォント変更、
プリントやテストでの文字拡大
テストでの代読
テストでのペン型スキャナ使用
テストの回答をデータでする
先生のパワーポイントの資料を共有
板書を減らす
テストの回答をひらがなでも可
プリントやテスト問題にルビをふる
読み書きができないことを叱咤激励しない
デージー教科書の使用
ノートを評価に入れない
赤点で追試科目のみテスト時間の延長
今後、学習指導員を付ける予定 など



【質問:意見書を受け取った後、お子様へどのような支援を実施しましたか。(26件中)】

- ◆タブレット PC など ICT 機器の使用 (22 件)
- ◆漢字カードやアプリの使用 (12 件)
- ◆代読や読み上げ (8 件)
- ◆教科書やプリントにルビをふる (7 件)
- ◆デジタル教科書や BEAM など音声教材の使用 (6 件)
- ◆その他 (9 件) 以下内容
漢字の小テストを選択式に
プリントや問題集解答の拡大コピー
代筆
オーディブルの利用
ノイズキャンセリングヘッドホン
学校使用 ICT 機器で音声入力アプリ使用
学校カウンセラー担任への説明
障害への自己理解を促す
試験前に勉強をみる など

3. ご利用者の声 アンケートより

保護者の方の声

〈学校とのやり取り、合理的配慮〉

- ◇学校の先生が子どもに起きている現象と結び付けて振り返り、配慮の根拠を他の教科担当の先生に伝えられるようになったようだ。子どものアセスメントだが先生方の困り感を解消するアセスメントという活用になった。
- ◇意見書は大変参考になり、子供の読み書きの困難について理解が深まった。ただ、合理的配慮をどの程度求められるのか、現状は難しいなど感じる部分もある。
- ◇成績不振だが本人なりに頑張っていること、怠けているわけではないことを理解してもらった。
- ◇本人と先生方が調整した内容と、受診結果などを報告書や依頼書にして都度渡した。学校は理解があり協力的だが、本人の受容が追い付かず、本人の意思を尊重しながら一つひとつ配慮を拡大してきた。
- ◇はじめは全く配慮もなかったがスクールカウンセラーを通し、担任だけでなく教務主任・学年主任などにも支援が必要な生徒がいることを伝えてもらい、徐々に変化が出てきた。
- ◇配慮をするのは学校では初めてだったそうだが、とても協力的だった。また、学校の中で我が子の例をきっかけに、同じように書くことが苦手なのではないか、というお子さんが見つかったそうだ。先生方にも、本当はできるのに、書くこと、読むことが苦手なためにできなくなっている子が認識してもらえるきっかけになれたのは良かった。
- ◇一定の理解は得られたと思う。

- ◇先生方が支援内容に不安を感じたとき、保護者に支援の内容や方向性、方法を確認するようになった。
- ◇保護者会や進級ごとに配慮する教科などについて意見交換する時間をとってくれるようになった。
- ◇怠けているように見えることが多いので、その点において理解を求めることができたのが良かった。
- ◇アセスメントは各機関との状況の共有にとても役立っている。アセスメント前に今の状況を相談したとき、すぐに理解して貰え、親も学校の先生もこれまで全く気付かず、本人も自覚なしに苦労・努力してきたことが、隠れディスレクシアの特徴と合致していて、親子で腑に落ちた。
- ◇学校に配慮を求めやすくなった。
- ◇学校側でもディスレクシアについて学ぼうとしてくれている。
- ◇子供の読み書きの現状と今後に見通しがたったことは非常にありがたいことだが、思ったほど合理的配慮は浸透しておらず、受け入れてもらえないので、どうやって画一的なカリキュラムの中でこぼれずについていけるか、まだまだ試行錯誤が必要だと思っている。
- ◇(アセスメントの)意見書をそのまま提出した。本人に合った支援法については、まだ家庭内でも手探り状態であることを伝えた。



◇親が子供の困難さの理解が進んだ。ただし学校へは理解が進まず困っている。

◇書ける、読めるけれど疲れるということを説明し、一定の理解が得られた。合理的配慮は本人が自分だけ周囲と違うことをしたくないと言うので、はっきりとした支援は導入していない。

◇担任の先生にお話しし、そこから学年主任、教頭先生へとつなげてもらい、試験時や授業時への配慮をしてもらえるようになった。

◇書きの労力を説明し、テスト直しでの繰り返し作業の減免を求めた。また板書ができないためデータをもらえるか確認した。そしてスケジュールの記入ができないため写真を撮ることの許可をお願いした。どちらも学校には理解されず「みんなと違うことは認められない」と特に配慮はない状況だ。

◇漢字の宿題で、書く回数を減らしてもらった。

◇支援提案書を持って、コンピューターを使用して授業に参加できるよう、板書を少なくできるように写真を取れるよう交渉したがパソコンは絶対不可であった。

◇面談と意見書の提出をして、英語の試験に関しては時間延長と問題を読みやすいフォントに変更してもらった。

◇アセスメント結果をもとに要望書を提出。試験時間の延長など個別対応をしてもらった。

◇テストの読み上げや、時間の配慮も本人の様子を見ながらしてもらっているようで、持ち帰るテストの点数が上がったように感じる。

◇デイジー教科書の導入やテストでのルビふり(読み上げ)、ひらがなでの回答も○にする等の配慮をお願いしたが、デイジー教科書を使う事以外は認められなかった。



〈お子様への理解・ご家族の変化〉

◇保護者の「何となく苦勞しているなあ」と感覚で感じていたことが、可視化できることによって、教育行政への根拠となり、保護者は「やっぱり間違っていなかった」と前向きになることができた。

◇子供の状況を知る事が出来たので、きっかけとして良かった。

◇以前は、子供の学習態度について、取り組まない、できない、遅い、理由が判らず、無駄に失望したり、厳しく叱ったりしていたが、学習に関しては、かなり寛容になり、少しでも進歩してあれば良いと思うようになった。子供は、自分に合った道を探せば良い、と思えるようになったので、子供に対する理解の点で良かった。

◇アセスメントを受けた事で、本人は自分の事を少し理解できたようだが、意見書で提案された支援をお願いする事に消極的であったり、今の状態で本人なりにこなせてるからいいと言っている。良い支援方法を本人がやってみよう、と思えるかが大切だし、難しいと感じた。

◇はっきりとアセスメントが数字で出るのは本人の特性理解だけではなく、家族心理の部分が変わったのもよかった。

◇父親の態度が変わった。うるさく注意しなくなった。

- ◇自分がどうして学校に行けないのかを話してくれるようになった。(板書が追いつかない、課題が間に合わないなど)



お子様の声

〈試した学習方法〉

- ◇家庭にて。タブレットを使う、パソコンを使う。
- ◇学校にて。読み上げの速さを2.1倍にする。
- ◇学校、家庭での PC 使用。
- ◇板書を写メ。タブレットやスマホを用いて復習。
- ◇授業時にタブレット端末を利用することで板書の転記が楽になった。
- ◇漢字おぼえるカード、漢字で●文字で答えなさいは、ふりがなでも解答できるようになった。
- ◇動画と選択式問題の教材を家で試している。
- ◇自宅にてタイピングの練習。読み上げや PC 入力での作文作成はもともと自宅では行っていたが、それらがなんの負い目もないことだということはわかった。わかったけど学校でやろうとは思わない。
- ◇塾にて。アセスメントの結果を伝えたが、大学受験ではまだまだ書きが出来ないと受験できる大学の選択肢が減って厳しいというお話があり、結局漢字暗記含め書く練習をしている。

- ◇ルビを振ってもらうことで、テストなどの時、問題文が最後まで読めるようになった。

- ◇音声入力で作文の宿題など。

- ◇家庭内では、漢字学習用に、タブレットでの読み上げ教材を試した。イメージで覚えるので、ひたすら漢字を書くよりは頭に残りやすそうだが、日々の漢字を丁寧に学習するところには、まだ至っておらず、結局、従来通りの方法で学習している。カラーシートも試したが、劇的な効果は見られなかった。

- ◇レポート作成時 PC で記入し、完成後レポート用紙に手書きで清書する。



〈学習方法を試して、変化や感じたこと〉

- ◇自分に起きていることがよく分かった、腑に落ちた。イライラしなくなった
- ◇配慮は、本人的にはモチベーションが上がる。
- ◇文字を耳から情報を取り入れることに慣れてきて、情報収集が早くなった。文字を凝視する時間が減ったことで、体調が安定している(1年以上疲労困憊な状態で体調も崩しがちだった)。
- ◇国語の長文問題が理解しやすくなり、疲労感が減ったようで、点数が倍以上に伸びた。
- ◇テストの点数が上がった。
- ◇あまり変化はない。
- ◇書くと先生の話が入ってこなかったが、ノートテイクが少なくなったので授業が分かるようになった。

- ◇テストにひらがなで書いても良いとなって、点数も少し上がったので、本人も少し気分が良かったようだ。
- ◇まだ時間があまりたっていないのではっきりは言えない。
- ◇覚えやすくなった、覚えられなくても絶望しなくなった
- ◇本人が完全に漢字をあきらめて、全く鉛筆・ペンを使わなくなった。そのためますます書けなくなっている。
- ◇頭の中を整理できるようになった。ただし移す作業が苦手なため苦労は続いている。
- ◇わかりやすくなった。
- ◇英語の評価が上がった。
- ◇音声入力による授業での口頭指示は見逃すことがなくなったため、とても安心できる。またデバイス各種情報を非常によく調べてきており、積極的によかれと思われるデバイスを様々試している。
- ◇最終的にはルビをふらなくてもよいとのことで、ルビ無しになった。
- ◇作業時間を減らすことができた。
- ◇以前は拒否反応を示していた国語の文章問題にも、取り組めるようになってきた。



- ◇教科書の音声データを聞くのは読むよりも楽だと本人が気付いたようだ。
- ◇PC を使用してもあまり効果がなかった、成績は変わらない。
- ◇フォントによって読みやすさが変化する。
- ◇漢字をまだ時間をかけてたくさん覚えなれないのか、もう覚えなくてもいいのか、どちらが正しいのかわからない。
- ◇機械的に暗記することは難しいので、覚えやすいように、関連付けて意味のあるものにするのを心がけた。
- ◇学校の先生が高校 3 年次の履修について本人と何度も相談してくれ、本人の希望を取り入れつつ、なるべく負担の少ない教科選択になった。そのおかげで高2より学校の課題の量が減り受験勉強する時間ができた。
- ◇疲労感が減ったことによって、本来の力が発揮でき、成果が可視化され自信に繋がった。
- ◇問題を読んであげる、選択肢をあげる事で、アウトプットまでの時間が短くなった。

